

令和3年度第1回北九州市地域バイオマス安定供給検討会

会議内容（結果）

【会議概要】

日時：令和3年8月23日 14:00～15:15

出席者：官民18団体23名（うち市役所関係2部局5名）

【議題次第】

- 1 これまでの取組と北九州市のエネルギー政策について
- 2 北九州市の木材生産状況について
- 3 北九州地域木質バイオマス利用推進会について
- 4 意見交換

【会議結果】

- 1 これまでの成果の確認と今後の展開
 - ・これまでの検討会の振り返りとして、山林に放置される未利用材等を有効活用することについて平成27年度から検討を重ねた結果、木質バイオマスの安定供給体制が整いつつあり、一昨年度から市有林の計画伐採が開始され、昨年度末にはFIT認定団体である「北九州地域木質バイオマス利用推進会」の発足が報告された。
 - ・また、一昨年度に行った木質バイオマスボイラ導入可能性のアンケート調査において、導入に前向きだった事業者へのヒアリング調査結果が報告された。
 - ・北九州市のエネルギー政策として、「再エネ100%北九州モデル」の概要が報告された。
 - ・北九州市の木材生産状況について、昨年度の実績と今年度の見込み量が報告された。昨年度は、2,320m³の木材が搬出され、バイオマスとしては977トンであった。今年度は予定量として8.89haの皆伐、間伐が実施予定であり、8/1現在では421m³の木材が搬出されており、バイオマス量については今後皆伐実施後に回収する予定あるため現時点では不明。
 - ・北九州地域木質バイオマス利用推進会について、今年度の活動実績が報告された。既に、市内の2事業者について認定を行っており、FITに対応できる木質バイオマスを供給できるようになった。認定審査については随時受け付けている。

2 主な質疑応答・意見交換の内容

- ・再エネ 100%北九州モデルのごみ発電のごみとは具体的に何を指すのか
→生ごみのようなバイオマス由来の廃棄物を指す
- ・昨年度のバイオマス材の実績である 977 トンは丸太のみか、回収した枝葉も含まれるのか
→皆伐は枝葉、根株等の回収量も含んだ値であるが、間伐は丸太のみである。
- ・北九州地域木質バイオマス利用推進会の活動を今後も進めていき、地域の伐採業者との連携を深めていく。
- ・木くず（家の解体材、建設工事における伐採材）が余っているので、有効利用の方策を検討していきたい。
- ・将来的に、バイオマス材が北九州市を超えて周辺自治体でも使われるようになるのか、バイオマス発電、バイオマスボイラの導入状況にもよるが、その辺りも議論ができるとう良い。
- ・市内部で製材品などの木材利用が進むと、端材の量も増えてバイオマス利用が進むのではないか。
- ・杉、檜の丸太は現在、高値で推移している。現在も、供給量が若干不足気味で、大雨の影響もあり年内はこのままの金額帯で推移することが予想される。
- ・脱炭素の流れもあり、石炭を代替できるようなバイオマス材が出てくると非常に良い。
- ・バイオマス材の議論に加えて、市民に向けた、普及啓発のような政策も合わせて考えていくと良いのではないか。
- ・バイオマスのエネルギー利用には技術的な課題が多いと感じる。この検討会の場で課題を明示することで、課題解決に繋げていければと思う。
- ・竹のカスケード利用については引き続き大学で研究を進めている。ある程度まとまった段階でこの場で報告する。
- ・本検討会について、当初の設立趣旨である地域バイオマス資源の有効活用という観点で見ると、北九州地域木質バイオマス利用推進会が発足し、活動を開始するなど、一定の成果を挙げることができたと考えられる。本検討会の今後の在り方について検討する時期に差し掛かっていると考えられるため、次回検討会ではそのような議論も行いたい。

以上

令和3年度 第1回 北九州市地域バイオマス安定供給検討会
参加者名簿

No.	団体・企業名（敬称略）
1	北九州市森林組合
2	京都森林組合
3	ホクザイ運輸株式会社
4	株式会社守恒造園建設
5	清水産業株式会社
6	九州電力株式会社
7	ダレスサンドロジャパン株式会社
8	テス・エンジニアリング株式会社
9	株式会社伊万里木材市場
10	日鉄エンジニアリング株式会社
11	響灘エネルギーパーク合同会社
12	NPO法人里山を考える会
13	九州工業大学
14	福岡県八幡農林事務所林業振興課
15	福岡県行橋農林事務所林業振興課
16	福岡県企画・地域振興部総合政策課エネルギー政策室
17	北九州市産業経済局農林水産部農林課
18	北九州市環境局グリーン成長推進部再生可能エネルギー導入推進課